

カザグルマ *Clematis patens* Morr. et Decne.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 4、固有度階級 2。湿地周辺の自然を象徴する植物の一つで、開発圧力の高い場所に生育しており、園芸目的の採取も無視できない。

【形態】

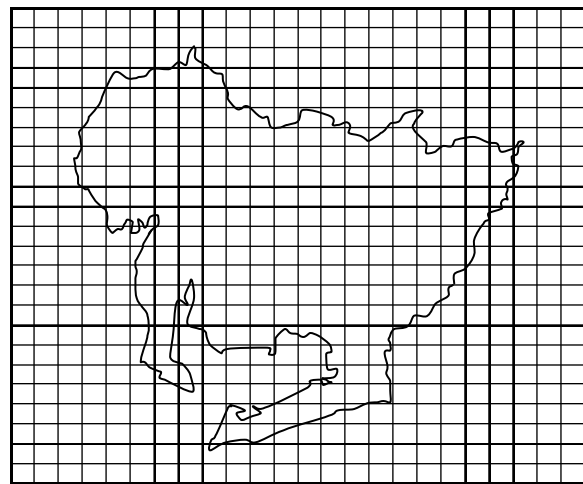
つるになる落葉性の半低木。葉は対生し、羽状複葉、小葉は3~5枚、卵形で先はとがり、基部は円形または浅い心形、長さ4~8cm、ときに3裂するが鋸歯はない。花期は5~6月、1~3対の葉をつけた枝の先に1個の花を頂生する。花は上向きに平開し、直径7~12cm、がく片は通常8枚、淡紫色のものもあるが愛知県ではすべて白色、狭倒卵形、上部は広がり、先端は急に細まって鋭尖頭になる。そう果は広卵形で長さ5mm、残存花柱は3~4cmで強く曲がり、黄褐色の長毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽西部(小林 37815)、鳳来南部(芹沢 58522)、作手(芹沢 79778)、新城(芹沢 65009)、豊橋北部(芹沢 58540)、渥美(芹沢 58628)、小原(伊藤泰輔 207)、藤岡(塚本威彦 585)、豊田東部(山崎玲子 1407)、豊田北西部(芹沢 51443)、額田(福岡義洋 629)、岡崎南部(芹沢 69084)、瀬戸尾張旭(塚本威彦 3014)、犬山(塚本威彦 1500)、春日井(山田果与乃 146)、名古屋北部(鳥居ちえ子 1931)、豊川宝飯にもあるという(小林, 2004)、名古屋南東部(緑区滝の水、浜島繁隆 s.n., 1971-5-18)で採集された標本もある。丘陵地~低山地に広く分布するが、渥美半島には少なく、知多半島からは知られていない。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州、四国、九州北部。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

【生育地の環境 / 生態的特性】

湿地周辺の林縁、湿った土手などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

現在のところまだ生育地も個体数も多いが、開発により生育地が破壊されたり、園芸目的で採取されたりして、次第に減少している。その一方で、丘陵地の二次林の利用が停止されたため、遷移が進行し、被陰されて衰退している集団も少なくない。

【保全上の留意点】

丘陵地の崩壊地がなかなか放置できない現状では、地形の改変を伴わない二次林の伐採は本種の個体群維持にとって不可欠である。園芸目的の採取やカメラマン、観察者による攪乱を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

園芸的には、遺伝子資源の確保という点で重要である。園芸植物のクレマチスは、本種などから交配により作出されたものである。彩色画はレッドデータブックなごや 2004 植物編 図版 4 に掲載されている。

【引用文献】

小林元男, 2004. 宝飯の植物 p.39, 115. 東三河農林水産事務所, 豊橋.

【関連文献】

保草 p.226、平草 p.73、SOS 旧版 p.50 (シロバナカザグルマとして)、環境庁 p.447、SOS 新版 p.103,105.